

芽高新聞

再刊294号
北海道芽室高等学校
新聞局
河西郡芽室町東めむろ
1条北1丁目6
発行責任者
上村 りの

きーたん!
17



僕は、2年B組の戸塚晴貴です。9月17日生まれの乙女座です。趣味は読書で、最近では村上春樹さんの『1Q84』を読んでいます。

僕が予想した、今年の漢字は「新」。新年の心意気を表しています。進学希望なので新たな気持ちで勉強に取り組んでいきたいです。

今年の目標と
かけまして
書いてあるとく
その心は……

吹部

冬休みにアンサンブル・管楽器で大健闘

アンサンブル金賞 惜しくも全道行けず

1月14日、帯広文化ホールで行われた第54回帯広地区アンサンブルコンクールにて、小林流華さん(2A)、鎌田桃歌さん(2D)、向井ひかるさん(2B)が審査員特別賞を受賞した。3人はフルートの三重奏で「月明かりの照らす」を演奏し、小林流華さんは「曲にはイメージがあり、今回は、3つに分かれている。第一楽章は、暗い感じ、第二楽章は、流れるような感じ、第三楽章は、激しい感じ」と、それぞれの曲調を話す。



審査員特別賞を受賞した向井ひかるさん(2B)、小林流華さん(2A)、鎌田桃歌さん(2D)



自分たちそれぞれで作曲を行い、小林さんは、第二楽章を担当した。「難しかったが、表現のしかたを太田先生や、外部の人に相談し、頑張った」と、作曲の感想を述べる。最後にコンクールの感想を、「あと一歩で全道だったから悔しい気持ちもあったが、嬉しかった」と語る。(村本)

「ロマンズ」という曲を演奏した。本番はあまり不安にならなかったが、表現面にもっと工夫が必要だった」と語り、最後に「夏のコンクールに向けて、基礎練習を冬休み並みに頑張る」と語った。寺井さんはアルトサクソフオンとピアノのための組曲「を演奏した。直前までピアノの子と最後まで通せなかったが、本番は今まで練習してきたことが発揮できて良かった」と語り「来年も校内予選に出たい」と次の目標を語った。(根元)



1月13日に、帯広市市民文化ホールで、第54回帯広地区管楽器個人コンクールが行われ、1Aの阿部沙利さんと寺井みつきさんが金賞を受賞した。阿部さんは、ホルンで「ロマンズ」という曲を演奏した。本番はあまり不安にならなかったが、表現面にもっと工夫が必要だった」と語り、最後に「夏のコンクールに向けて、基礎練習を冬休み並みに頑張る」と語った。寺井さんはアルトサクソフオンとピアノのための組曲「を演奏した。直前までピアノの子と最後まで通せなかったが、本番は今まで練習してきたことが発揮できて良かった」と語り「来年も校内予選に出たい」と次の目標を語った。(根元)

参加した大西杏実さん(1D)は「勉強時間が長くて大変だったけれど、他クラスの子と教えあいました。これから自分では学習習慣をつけ、将来のために頑張りたい」と語った。(鈴木菜)



勉強合宿 in 帯広の森
1月9日から11日の3日間、帯広の森研修センターにて勉強合宿が行われた。今回はその様子を紹介する。
この勉強合宿は自分の進路を実現させるために、学力向上を図るのが目的。今回は1年生が7名、2年生は、21名の計28名が参加した。1日の主な内容は朝から午後まで国語の講習。その後は自習時間となった。2日目は、大学進学を目指す生徒には2学年主任の伊藤智昭先生が、看護学校進学を目指す生徒には看護予備校の先生が、長年の加藤好子さんが進路講話を行い、受験についての経験談やアドバイスを語った。

コミュニケーション能力

今年度も就職が好調だ。その中でも私たちは釧路病院に就職を決めた3年C組松山由芽さんと、進路担当の出崎彰子先生に取材した。また、これから就職する1・2年生にアドバイスをもつた。

就職活動を通して、頑
張ったこと、大変だった
こととして「気力で負け
ないようにしたことと履
歴書を沢山書いたこと」



就職活動について語る松山由芽さん(3C)

就職してからの、目標として「就職先の仕事について1から覚えて、辞めずにずっと続けられるように頑張りたい」と意

「今年は例年に比べて求人が多かった」と話すのは出崎彰子先生。今年の3年生の就職活動は暑気が良いということもあり、現段階では、就職希望者のほとんどが内定を決めた。

例年と比較すると、早

い時期に内定を決めた人もいたが、平均するとだいたい同じくらいだという。

今年の3年生の活動を見て感じたこととして、「早くから用意周到に準備をして頑張った人と、求人が多いぶん志望先を

決めるのに時間が掛か
た人として、個人差があ
た」と話す。また、「色
なアドバイスを生かし
いこうと活動してい
く徒が多かった」と振
りるが、「もつと自分
から極的に行く姿勢
が欲しかった」とも
話す。

変えられない。しつかり
挨拶をするといったこと
など、普段からの心がけ
が大事」と語る。

最後に、就職した3年
生に「これから社会人
になるといふ自覚を持
ち、前向きに頑張つて」と話
した。

(藤田)

と、いうのも「企業が求めている人材は積極性がある人」だからだ。「これはこれから就職する12年生にも言えること」と出崎先生。そして今後のために「意識は急こまら

ヘドロドロマジ

昨年12月、校内の大掃除で水飲み場の排水溝の中からヘドロがでてきた。もう何年も掃除されていなかったよ
うな汚れだった。

して掃除をしている人はどれだけか。この例のみならず、なんとなく考え無しに行動していることは多くないか。最近の若者の流行語

やノリ」ばかりを重視している証拠ではないか。取り返しのつかない事が起こるかもしれない。

「考える」ことで人

そもそも掃除とは、
「自分達が使う場所を
きれいにする為だけで
はなく集中力を高める
のに行く」もの。しか
し、本来の意味を理解

に「正」がある。本来、仏教などの吉兆の印であつて、決してテンションが上がつた時などに使う語ではない。これも考え無しに「感覚

は悩み、成長をしていく。自分の生きる力をつけることもできる。何か行動する時、その理由を考えること、そこから始めてはどうか。

なぞかけ答え

どちらも同じ（抱負・抱
富）です。

明けましておめで
ございました。冬休

終わり定期テストまで
残りわずかですが、た

きましよう。(上村)

局長	上村	りの	(2A)
副局長	豊島	翔大	(2B)
編集長	藤田	明日香	(2A)
	相川	愛実	(1A)
	高砂	萌衣	(1A)
	鈴木	菜々美	(1B)
	根元	七穂	(1B)
	村本	亜美	(1B)
	鈴木	麻央	(1D)
	森	仁美	(1D)
顧問	石森	由香利	